

(様式第 4 号)

第 4 回上田左岸地域協議会 会議概要

1 審 議 会 名	上田左岸地域協議会
2 日 時	令和 6 年 7 月 25 日 午後 1 時 30 分から
3 会 場	川西公民館 大ホール
4 出 席 者	赤堀委員、稲垣委員、王鷲委員、坂田委員、西入委員、羽田委員、久松委員、星委員、前所委員、松田委員、宮坂委員、宮崎委員、安江委員、山岸委員
5 市側出席者	【 事 務 局 】堀内市民参加・協働推進課長、山崎塩田地域自治センター長、馬場川西地域自治センター長、滝沢城南地域振興政策幹、大森川西地域振興政策幹、平田地域内分権推進担当係長、竹花地域内分権推進担当係長、滝沢地域内分権推進担当主査、城下地域内分権推進担当主査、清水地域内分権推進担当主任、桐山地域内分権推進担当主任 行政管理課：小林課長、荒木主査、益満主査 健康推進課：前沢補佐、笹井主査 農業政策課：滝澤係長
6 公開・非公開	☒ 公 開 ・ ☐ 一部公開 ・ ☐ 非公開
7 傍 聴 者	0 人 記者 0 人
8 会議概要作成年月日	令和 6 年 8 月 1 日

協 議 事 項 等
1 開会
2 会長あいさつ
3 協議事項 (1) 温泉施設の料金改定と家族券の廃止について (会長)これまで 500 円だったものが、いきなり 650 円となると、他施設と比べても唐突感がある。高いと感じる方も多いのではないかと。タイミングと、他自治体の料金改定の動き等分かれば教えて欲しい。 (行政管理課長)合併から 18 年経過するが、公の施設の使用料については、統一した基準による料金見直しを一度もされていない状況である。 温泉料金に関しては運営事業者から何度も値上げの要望が出ていたが、他市の状況を踏まえて値上げをせずに運営いただいていた。今年 1 月に基本方針がまとまり、今回の料金改定に至った。 本来であれば、実際に掛かったコストに対して、もう少し値上げをしなければならないところではあるが、基本方針の中に 1.3 倍の範囲内での料金改定に留める、と緩和措置を定めたため、1.3 倍の範囲内の 650 円で改定を行いたい、というもの。 近隣自治体の中では一番高い料金となることから、指定管理者の皆さんと共にサービス向上に努めていきたい。 (会長)他自治体でも今後値上げすることになるか。 (行政管理課長)おそらく上田市の状況を見て、他市の温泉施設についても値上げの動きはあるだろうと考えている。

(委員) 値上げに伴う利用者増減についての見通しはどうか。

(行政管理課長) おそらく減ると危惧している。150 円の値上げの影響は大きいと考えている。

どのような形でサービス向上を図れるか、市として軽減策はできるのか、担当課とともに検討しているところ。

(委員) 料金値上げはやむを得ない部分はあるかと思うが、一般的な料金値上げの手続きとしては、住民説明会や審議会の経過を経て議会に上程することが多いと思う。そういった役割を地域協議会への説明で終わらせるのか。あるいは住民説明会等を考えているのか。

(行政管理課長) 平成 20 年に温泉の料金統一を行った際、地域協議会にお諮りした経過があり、今回も地域協議会の皆さんにご意見を伺っている状況。住民説明会等を行う予定はない。

(委員) 料金改定について、値上げの部分では光熱費や人件費等の観点から致し方無いと思うが、子を持つ母として、家族券廃止の部分は、設定当時より多くの利用があるにも関わらず廃止をするのは勿体ないと思う。料金を上げることで利用する人が減るということだったが、減ってしまったのは、値上げしても意味がないのではないか。家族券利用者が多いのであれば、値上げしてでも利用いただいた方が売り上げは潤うのではないか。

スキー場のように地域住民への割引を検討してもいいのではないか。家族で利用してもらえれば、子ども達が育った時に温泉に行く流れが受け継がれるのではないか。何十年先の施設の継続を考えれば、値上げしてでも家族券は継続した方がいいと思う。

(行政管理課長) 家族券については、我々もかなり時間を掛けて検討してきた。2,000 万円近い売り上げがある中で廃止したい大きな理由は割引率にある。利用いただいているのはありがたいことだが、1 回あたり 160 円ほどの単価で入れることになり、利益が少ない。

武石、真田、丸子地域協議会でも説明を行ってきたが、上田市民と市外の利用客で料金に差を設けたらどうか、という意見があった。今後の検討課題として協議していきたい。

(会長) 個人的には、子育て支援をアピールするには家族券があった方が良いのではないかと考える。

(委員) 家族券の運用上の課題の中に、現場での家族確認が困難とあるが、別の人が使い回しているようなケースもあるのか。

(健康推進課長補佐) 家族券は写真入りになっており、使い回すということはない。

(2) 左岸地域の住民自治組織の役割と今後の在り方について

(委員) 人的資源と予算的資源が足りないと説明にあった。まちづくり協議会の資金的原資はどこからきていて、どのくらいの活動予算があるのか。事務局はどういう方が担っているのか。

地域協議会は条例で位置付けられているということだったが、住民自治組織は市の制度上どのような位置付けになっているのか。

(市民参加・協働推進課長)13の住民自治組織に、市から年間6,500万円ほど支出している。これまでわがまち魅力アップ応援事業に充てていた金額と大体同じ。合併時に貯金として貯めた基金から取り崩して交付している。毎年、国債等を購入して運用している。

自治会自体は任意の団体であり、解散も新設も自由。自治会の課題はどこの地域でも同じで、人口が減り、加入者が減っている。

住民自治組織は市の自治基本条例の中に位置づけられた、自治会の範囲を越えて、地域の生活環境などをテーマに活動する団体。

地域協議会は、市の附属機関に位置付けられている。地域自治センター条例を廃止すれば、地域協議会もなくなる。合併した他の市町村は、地域協議会を10年ほどで止めているが、上田市は20年続けている。自治基本条例は県内でも6つの市しかできていない。

どうやったらうまくやっていけるか、皆さんに案を出していただき、市で協議していきたい。13の住民自治組織があるが、必ずしも全部が同じでなくて良い。

住民自治組織は1つ設立されると、人件費が1人あたり100万円掛かると言われている。事務局を増やすと、余計なお金が掛かる。同じ地域性、課題があるところは、なるべく1つでやっていきたい。

上田市では組織の作り方は地域に任されており、市の理想では中学校区単位だが、今の制度では小学校区単位となっている。

(会長)先ほどアンケートという話があったが、その辺りの説明をお願いしたい。

(市民参加・協働推進課長)市民と自治会役員を対象としたアンケートで、事務局で素案を作りたいと思っている。次回の協議会前にご案内できればと思っている。アンケートは委員1人あたり市民10人ほどに配っていただき回収いただきたいと考えている。市民の皆さんの考えをアンケートから拾い上げられればと思っている。

(会長)9月にアンケートの素案をお示しして、協議会委員の皆さんに1人10枚ほど配って回収して貰う、ということだが、我々がアンケートの内容を説明しながら配る、ということか。

(市民参加・協働推進課長)住民自治組織を知らないような方に配っていただきたい。委員の皆さんの負担が少なくなるように、説明をアンケートに入れて作成しようと考えている。

(会長)我々もどういった趣旨か説明できるよう、理解を深めながら進めていく必要がある。

(委員)アンケートをお願いする方に、1人1人説明するということか。

(市民参加・協働推進課長)それが理想ではあるが、分からなければ直接、事務局に聞いていただいても構わない。

(委員)広報の配布と一緒に、隣組長をお願いするのはどうか。

(市民参加・協働推進課長)自治会の負担がなるべく増えないようにしたい。

(委員) 委員として協議会に参加して、自治会の活動、住民自治組織の活動、地域協議会の担っている役割がようやく分かってきた。隣組の皆さんを見ると、住民自治組織については知られていない気が大いにする。住民自治組織で予算の使い道がないので無理矢理に事業を行った、という話も聞いたことがある。もっと市の財政を有効に使わないと勿体ない。

自治会の三役が充て職で住民自治組織の役員になっている。自治会もあって、住民自治組織もあって、よく分からない。小学生の通学支援をやっているのは知っている。高齢者のふれあい教室等を実施しているところもある。

(市民参加・協働推進課長) これまで、市から住民自治組織への交付金について、飲食以外に使用用途の制限はしていなかった。市民の皆さんの要望に応えた事業をやっていたようであっても、地域協議会と住民自治組織の両方で話し合ったことは一度もなかった。

連携しているようで、出来ていなかった。これからどうやっていけるか、それぞれで考えていただきたい。

(委員) そのためのアンケートということか。

(市民参加・協働推進課長) アンケートは、市民の皆さんが現状何を思っているか、調べるためのもの。

(委員) アンケートはどのように配ればよいか。お願いする際には委員から説明することになるのか。

(市民参加・協働推進課長) 選出団体や、近所の方に依頼していただいて構わない。家族でもよい。アンケートの中に説明を入れるようにしたいと思っている。

(委員) ここに居る委員 1 人が 10 枚ずつ配って集めても 200 人程度。それ以外に QR コードを付けて回答できるようにすれば、たくさんの人からの意見を募れるのではないか。

地域協議会や住民自治組織を知っているか、その必要性を問いたいのか。

(市民参加・協働推進課長) 地域の課題解決に向けてどんなことが必要か、聞ければよい。内容についてはこれからだが、200 人集まれば参考になる意見をいただけたと思う。

自治会の皆さんにも別のアンケートを取っていきたいと思っている。

(会長) アンケートの内容等については次回、素案を出していただき、ご意見をいただきながら作り上げていきたい。

(委員) 川西まちづくり委員会で事務局員をしていた経験がある。外から見た感想を集めるのは素晴らしいことだと思うが、設立して 8 年。数年しか経っていない組織もある。

組織の活動を皆さんに知っていただくのは非常に難しい。高齢化率が高くなり、ホームページでいくら発信しても、回覧を回しても、認知いただくのは難しい。

アンケートをお配りするの、まちづくり委員の方にお配りした場合と、近所の方の場合と、全く異なる結果になる。アンケートの内容や配布の対象をもう少し考えていただきたい。

(市民参加・協働推進課長)配布の対象等、皆さんの意見を聞きながら進めていきたい。

(3) その他

次回 第5回開催予定

日時 9月12日(木)午後1時30分から

場所 塩田公民館

4 事務連絡

5 閉会